

後援会通信 NO.8

「変わらぬ応援」

後援会 会長 田辺 真理



後援会発足後9年間、常に心がけていることは、湘南学園の子ども達の笑顔が見られるような、幸せな未来に繋がるような活動をする事です。

その心根は、PTA OB・OGの、湘南学園への変わらぬ無償の愛です。来年度、10周年を迎える後援会は、いつもご理解とご支援くださる会員の皆さまの温かい心を感じながら、この先も変わることなく子ども達への応援を続けてまいります。



「ナナメ」の大切さ

学園長 川井 陽一



湘南学園の魅力と特色は、保護者と教師が手を携えながら、子どもたち一人ひとりに目を注ぐ、手づくりのよさを大切にしているところにあるような気がします。在学中はもとより、お子様の卒業後も学園の教育に深いご理解とお力添えを賜っている後援会の存在は、学園の魅力と特色を支えていただく象徴のようにも思えます。

杉並区立和田中学校に民間人校長として着任し、多くの成果を収めた藤原和博氏は、子どもの成長にとって、親と子、教師と生徒といった「縦の関係」に加え、祖父母、おじさん、おばさん、先輩、地域の方々等との「ナナメの関係」が重要であると述べています。建築でも、「ナナメの補強」が大事だといいます。後援会の皆様には、ぜひ「ナナメの関係」の中心として、引き続き学園の子どもたちの成長に向けてのご支援をよろしくお願い申し上げます。



バザーの報告



後援会 会員 高尾 信

平成28年10月2日(日)バザー日和の心地よい晴天のもと、後援会は例年通り会員の皆様にご協力をいただき、パッチワークなどの手作り手芸品、手作りのお菓子、寄贈品等を出品し、過去最高の収益を上げた昨年を更に上回る、14万3,930円の売上げがあり全額をPTAに寄付いたしました。

私も当日の販売や片づけのお手伝いに加わらせていただき、ご協力の皆様の笑顔で心のこもったご活躍の中、楽しい時間を過ごすことができ感謝しております。田辺会長や芳土戸さんなどは事前準備もたいへんだった上、終日休憩無しで精力的に動かれていたのには頭が下がる思いです。

来年も今年同様、皆様方と楽しくバザーのお手伝いできればと思っています。

どうもありがとうございました。

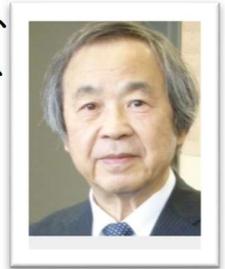


後援会のほのぼのバザー

仲本 正夫（前学園長）



私が、湘南学園後援会に入ったのは、創立 80 周年の大きな取り組みの中で、後援会がとても素晴らしいということがわかったからです。昨年の学園祭では、エプロンをつけて後援会のバザーのお手伝いをしました。



会員さんが熱心に働いている風景はほのぼのとしていて楽しかったです。さて、80 周年のときの中学 3 年生が、いよいよ今春、高校卒業ですね。

おめでとうございます。

カフェテリアと共に歩んだ 3 年間ということで、感無量です。

第 7 回総会及び懇親会のご報告

文責：後援会副会長 芳士戸 ルミ子

平成 28 年 4 月 16 日（土）に湘南学園後援会後援会第 7 回総会が開催されました。冒頭、川井陽一学園長、濱野文一 P T A 会長、筧元則同窓会会長より、ご挨拶を頂戴いたしました。詳細に関しては、湘南学園ホームページ内「湘南学園後援会」をご覧ください。

1. 第 1 号議案

事業報告及び収支計算報告の承認を求める件 （全会一致で承認）

2. 第 2 号議案

平成 28 年 4 月から平成 30 年 3 月までの役員及び会計監査選出の承認を求める件
（全会一致で承認）

3. 第 3 号議案

事業計画及び収支予算案の承認を求める件 （全会一致で承認）

4. 第 4 号議案

会則変更の承認を求める件 （全会一致で承認）

総会后、出席者から会費 500 円を頂戴し、会場にて懇親会を開催しました。NPO 法人湘南食育ラボからの手作りのケーキと飲み物をいただきながら、榎本勝己中高校長、河本洋子小学校長から学校の様子をお聞きし、また全員で自己紹介や学園への思いなどを語り合いながら、和やかに楽しい会を催すことができました。

小学校 AFTERSCHOOL

お料理教室講師 大谷 津雪(後援会会員)

アフタースクールのお料理教室を担当して、今年で4年目になります。子ども達にはチュッキー先生と呼んでもらっています。毎回、「チュッキー！今日はなあにい～！？」と家庭科室に元気な声が響くと、自然とテンションが上がっていきます。

長男、次男共に小学校からお世話になった、懐かしい学園でお料理を教えられるのは、とても楽しい時間です。

メニューは、ごはんとスイーツと週替わりで作ります。石焼ピビンバや手作り生地のピザ、ブッシュドノエル、桃のクラフィティなど、ちょっと小洒落て難しいモノも作れるようになりました。



毎回、イラストを描いたレシピを渡しているのですが、実際はレシピより味見をして「どうかな？」と舌で覚えるのが大切だよと伝えています。

『自分で作ったら、嫌いだった物が食べられるようになった。』

『お家の人に作ってあげたら喜んでくれた。』そんな感想を寄せてくれます。

私自身も小学生の時に料理が大好きになったのですが、そのキッカケが担任の先生



が家庭訪問に来た時に、私の手作りのプリンアラモードを美味しかったよと褒めてくれた事でした。前もって伝えていたので「他のお家では何も食べないで楽しみにしていたよ。」と言って下さり、嬉しくて心がワクワクしたのを覚えています。

そんな気持ちを、料理を通して子ども達にも感じてもらえたら良いなと思っています。

松ぼっくりフォーラム参加記

後援会副会長 小田 拓也

去る7月2日第6回松ぼっくりフォーラムは2020年東京オリンピックセーリング競技が地元江の島開催決定に因み“ヨットに学び、ヨットを楽しむ”をテーマに、開催されました。

基調講演は、神奈川県セーリング連盟副会長 昇 隆夫氏、NPO法人セイラビリティ江の島副会長 北川源太郎氏による、ヨット競技の概観、面白さ、操船の楽しさ、ヨットが与えてくれる人としての成長が語られました。

その後パネルディスカッションが行われ、PTA、各校代表の先生方、同窓会、後援会では田辺会長がパネリストとして参加しました。

各パネリストからは、湘南学園の立地から古くから海との関わりを持ち、ヨットとの繋がり、海が育てるコミュニケーションについて語られました。質疑応答では、出席者からのコメント、質問が相次ぎ、現役の中高生の発言も注目を集めました。また、開催競技の立場から、訪れる観客、選手をお迎えする



ホスピタリティに関するコメントもあり大変活気ある会となりました。

「ブリティッシュヒルズ事前セミナー」

後援会役員 企画幹事・徳光 健

昨年12月17日、小学校でブリティッシュヒルズイングリッシュセミナーが開催され、5・6年生18名が参加し英語と異文化体験を行いました。保護者、後援会、同窓生の計12名のボランティアが、入国審査、両替、交通案内、ホテルフロント、案内係の役割で完全英語のみで子供達に接しました。

当日は後援会でお菓子と飲み物を準備し、子供達が全部食べてくれました！「現地での入国審査、両替やチェックインなども、練習していたので何とか全員通過、自力でやり遂げ自信をつけたと思います。お蔭様で子供達が事前に心構えを持って大変効果的でした」 冨田先生談。



小学校からは「来年度も是非」と言われ、このような機会を幼・中高でも開催出来たらと願っております。

Kokoro 赴くままに NO. 8



「思い出」



後援会役員 総務幹事 近藤正隆

新聞で、平井先生の写真を見つけた。彼が退職後もクラシック音楽の演奏会を企画しているのは知っていた。在職中も学園主催の演奏会や小規模な演奏会を行っていたので、それをまだ続けているのだろう。

35年程前、彼とは中学校で同じ学年を3年間続けて担任したことがあった。当時も中学生には様々な問題があった。いたずらをしたり、いじめがあったり、不登校の生徒がいたり毎日がとても忙しかった。特に、彼のクラスに不登校の生徒がいたので家庭訪問や専門家への相談の結果が学年会で報告された。よく議論したので私はとても勉強になった。

一方、当時、中学校は1学年2クラスから3クラスになっていた。将来、中学校と高校をどのようにするかを決めなければならなかった。その後、中学校で1学年4クラス、5クラスとなり、高校募集を休止し今の体制をとることになる。湘南学園にとって激動の時代を平井先生と同じ学年を担当したことになる。

退職後に平井先生とは仏事で見かける程度であったが、同窓会があるとの連絡を受けた。出席したところ中学卒業時の担任であった平井先生、赤井先生と私の3人が同窓会に参加していた。このように担任が揃うのは珍しいことである。僕らは30才代でとても若かったからであろう。会では、なつかしい顔ぶれを見て、昔の思い出を語り合った。そして「あの頃は、今の君たちよりも僕らは若かった。だから今になって思い起こせば、まずい対応ばかりで謝りたい。」というようなことをあいさつで話した。